

## 所内研修⑤ 「保育参観の視点」

6月24日(水)に所内研修として、大城美恵子指導主事を講師に、「保育参観の視点」と題して講話をいただきました。

来週からスタートする長期教育研究員の検証保育の参観の視点を小中学校の教育研究員に金城さくら先生の実際の検証保育の様子から事例を取り上げながら、丁寧にお話ししてくださいました。

検証保育参観の留意点も「保育参加ではなく、保育参観をこころがけてほしい」、「子どもの様子は、子どもの表情、発することば、遊びの様子、行動の様子を丁寧に見てください」と具体的に示してくださいました。

7月3日に行われる金城さくら先生の検証保育において、何をどのように参観すればよいのかが、明確になった、所内研修会でした。

### 【研修の概要】

#### 1 検証保育参観の留意点

- ・参観者の積極的な話しかけを控える。
- ・幼児から声をかけられた場合は必要に応じて答える。
- ・幼児の活動の妨げにならないようにする。
- ・保育参加ではなく、保育参観を心がける。

#### 2 環境構成の工夫をみる視点

- ・活動の場が適しているか。
- ・幼児の活動を促したり、豊かにしたり、発展させるためにどのようなしかけをしているか。

#### 3 教師の援助の工夫をみる視点

- ・幼児への言葉かけ ・安全面への配慮 ・子どもたちへの接し方

#### 4 幼児の姿から友達と共に遊ぶ楽しさを味わっているか読み取る

- ・幼児の表情 ・発する言葉 ・夢中になって遊んでいるか

#### 5 保育全般から

- ・わかりやすい言葉、はっきりとした口調、丁寧な言葉かけ
- ・幼児の主体性を促す言葉かけ
- ・幼児同士の関わりを見守り、必要に応じた適切な援助



写真1 研修の様子



写真2 研修を終えて

### 教育研究員の感想 (研修日誌から)

幼稚園の保育の見方について共通理解を図る場を設けていただき、美恵子指導主事が説明なさるといふことに、とても身が引き締まる思いがしました。質問にあがったことが今の私にはきちんと説明できないと、改めて自覚した部分もあり、そこをきちんと抑え、誰に対しても説明できるようになることが研究の大きな成果につながるのではないかと思いますので、今後も考えを深めていきたいと思いました。

(金城さくら)

環境構成の大切さについても、十分な幼児理解が必要となります。そして、児童が次に何を欲するか予想する力も必要となります。そう考えると幼稚園教諭はすごいなと感じました。

幼児の目線でものを見て、幼児をしっかり観察すること。そういう基本的なことをしっかりやっているからできるのだと思います。そういう教師の姿勢が多く支援のアイデアを生み出しているのだと感じました。

(大城厚)

小中学校の授業とは違い、幼稚園は自主的な活動を中心としているので、子どもたちの遊びを妨げたり、邪魔したりしないように保育参観をしていく必要があることを学ぶことができました。保育参観の視点として、子どもたちの遊びが深まるように、またさくら先生の研究テーマであるかかわりが生まれるような「環境構成」「教師の援助」が保育の大きな手立てとなっているということでした。教師も含め、活動、掲示物、音楽BGM、遊具・道具等全てが環境構成であり、これらが子どもの願いや活動に適しているかどうかを見取り、また、教師の意図的なしかけを感じ取れる目も大切だと考えます。子どもたちに寄り添い、最大限の援助を用意できる教師の姿勢や手立ての在り方を学び、私の授業実践にもぜひ取り入れていきたいと思います。

(長門照乃)

今日の講話で1番インパクトに残ったのが「幼稚園での環境は、小学校の教科書である」ということです。幼稚園の「環境を通して行う教育」は何度聞いてもすごいなと思います。小学校では、教科書には答えがあるので、指導はしやすいのですが、幼稚園は答えがない中、幼児の様子を事細かに観察し、どのような仕掛けをどのタイミングで行うのかを考えないといけないので大変だと思いました。

小学校の研究授業では、どうしても子どもたちに声をかけたり、思わず教えてしまったりすることが多くあります。幼稚園では、参観者の声かけで遊びが変わってしまい、主体性の妨げになるということなので、検証保育では十分に気をつけたいと思います。今回の視点は環境構成と援助の工夫なので、さくら先生の幼児との接し方や声かけに気をつけて幼児がどのように活動していくのか見てみたいと思います。

(具志堅智美)

環境構成について、幼稚園では幼児の主体性を促すために、いろいろなしかけを考えているので、それが何なのかをしっかりとみてこようと思いました。「そこにあるもの全てが環境構成されている」と話していたので、なぜここにあるのか？という視点で自分も考えてみたいと思います。

幼稚園の環境構成が中学校の指導におけるヒントになるかもしれないと思いましたが、教師の意図するように導いてしまうと主体的ではないという考え（転ばぬ先の杖では主体性は育ちにくいという考え）もあるので、自分の研究と幼稚園の環境構成をすりあわせながら観ていきたいと思います。

幼児が純粋にやってみたいと思う気持ちはどこから湧いてくるのか、どういう場面でそのような気持ちになるのかという視点でも保育参観できたらと思います。

幼児教育と中学校での教育の相違点という視点でみることも面白いのではと感じました。幼児の活動だけではなく、教師がどのような声をかけて、どのように動いて、どのような支援（援助）を行っているのか、自分の研究と重ねながら参観したいです。

(古屋誠一)